

議会見学の感想



6月3日に坂祝小学校6年生（47名）の皆さんが、議会を見学に来てくれました。寄せられた感想の一部をご紹介します。

1組 苅谷 彩葉 さん

町議会は、地域の住民の意見をもとに、それらをどうするのか詳しく話し合う場所であることがよく分かりました。こうした話し合いによって予算などを決め、町をより良く発展させていると思ったので、これから6年後に選挙権を得たときには、自分の意見を大事にして選挙に行かなければならないと改めて感じました。

1組 木邊 燈和 さん

町議会では、坂祝町の課題を挙げ、より良くするためにはどうしたら良いかを話し合っていました。坂祝町が安全で豊かな町になるために、様々な人が関わっていることが分かりました。議長さんから「自分の意見を言うことが第一歩」と言われたので、学校生活の中でも意見を言えるようにしていきたいです。

2組 岡山 亜希歩 さん

見学をする前は、子どもでは分からない難しい話をしていると思っていたけれど、獣害の話やそれに関係している通学路の話など、児童や町民を大切に話していて、思った以上に自分たちの生活に関係しているのだなと思いました。また、大きな声ではきはきと話したり、議長さんに言われてから発言したりしているところがかっこいいなと思いました。

2組 加藤 綾夏 さん

町議会で話し合われたことが、実際に取り組まれると、野生動物の被害が減るかもしれないので、とてもわくわくしています。6年後には私たちにも選挙権があるので、よりよい坂祝町になるように、政治に興味を持って投票に行くなど、頑張りたいと思いました。

議会の決定で、町はどう変わるの？



令和8年度 一般会計補正予算(第2号)の主な内容

- 庁舎非常放送設備の修繕費 2,437千円
- システム標準化によるガバメントクラウド利用料 23,000千円
- 福祉施設寄贈に伴う光熱水費 1,564千円

一般質問 ～問い、答え、動き出す。～

7人の議員が坂祝町の現在と未来について、一般質問を行いました。

林 俊太 議員

●生活圏における野生動物対策と自然環境・地域安全の両立について



動画QRコード

問 近年、野生動物による被害が農作物だけでなく住宅地や通学路など生活圏にも広がる中、従来の農業被害対策に加え、「生活安全」「交通安全」「通学路安全」の観点を含めた対策や、行政・学校・地域が一体となった管理のあり方について

答 侵入防止柵や緩衝帯(バッファゾーン)の整備には地元の方々の協力が重要であり、「自分たちで守っていく」環境保全への意識を持って実施していただくことが大切であると考えています。

学校周辺での出没時には、メール配信システム「すぐる」により情報共有を行うとともに、学校・警察・猟友会等と連携し、児童生徒の安全確保に努めています。野生動物対策は特定の方々だけの問題ではなく、町民一人ひとりが関わるべき「地域全体の課題」と考えております。関係機関との連携を強化し、環境づくりや啓発活動を進めながら課題に取り組みます。

佐藤 猛 議員

●町道などの愛称命名について ●サイクリングロードについて



動画QRコード

問 町道は「町道〇〇号線」など行政上の名称が多く、住民には分かりづらい状況です。町道や坂道に親しみやすい愛称を付けることで地域への愛着や観光振興につなげてはどうか。

答 道路への愛称命名は、地域への愛着形成や観光振興に有効であると認識しています。愛称の選定は、住民公募や小中学生、地域住民の参加による手法が望ましく、決定過程そのものが地域への誇りや絆を深める機会になると考えています。今後は先進自治体の事例を調査研究し、主要路線を対象とした導入の可能性を検討していきます。

問 岐阜県が進める木曽川流域のサイクリングルート構想について、坂祝町としてどのように連携・活用していく考えか。

答 木曽川流域のサイクリングルートについては、町も関係協議会に参画しており、日本ラインロマンチック街道を含むルートの案内看板や安全対策の整備を進めていきます。木曽川や岩屋観音、木曽川の森散策路などの地域資源を活かし、サイクリストが立ち寄りたくなる魅力づくりを進め、交流人口の拡大や地域活性化につなげていきます。

松田 賢治 議員

●保育士等の待遇改善と『こども未来戦略方針』について



動画QRコード

問 国の配置基準緩和と給与反映の乖離を踏まえ、本町における保育士の配置状況や処遇改善の実態について

答 町内の保育園、こども園は法人内の運営の中で適切に配置されていると承知しています。両園の状況について適宜確認しながら出来る支援を適正に行うことで、安心してこどもを預けられる保育環境の整備、質の高い保育の確保に努めてまいります。

問 「こども権利の日」の設定や集中啓発、教材による学習機会の確保を進め、条例の三層構造を分かりやすい表現で広く周知する方法について

答 重要なことは継続的に行っていくことだと考えておりますので、ご提案をいただきました「特別な日」も参考にさせていただき、引き続き効果的な方策を検討していきたいと思っております。

▼前ページから松田賢治議員の一般質問続き

問 児童生徒主体の宣言策定を機に、意見表明の場を制度化し、外部専門家を入れた検証組織の設定の考えは。

答 独自の宣言は策定せず先進自治体の対話プロセスを参考に、今年度実施予定の「ゆるトーク」を通じて、こどもが主体的に意見表明できる機会を制度的に活用します。

宮内 聡樹 議員

● ボランティア募集について

● みのかも定住自立圏第4次共生ビジョンについて

問 若者のボランティア活動への参加は、主体的な地域づくりを学ぶ機会となるだけでなく、将来のまちづくりや地域活性化を担う貴重なエネルギー（財産）となるが、その考えは。

答 こども達が自由に語り合う場「ゆるトーク」の実施や町LINE公式アカウントに「若者向け情報」を整備し、CSや町社協等と連携して若者が企画・実行者として活躍できる場を広げます。これにより、町外転出後も坂祝町とつながり続け、将来の関係人口やUターン、ひいては次世代を支える側に回るといふ、人と地域の持続可能な好循環の確立を目指します。

※CS（コミュニティ・スクール）とは、学校・保護者・地域住民が力を合わせて学校運営に取り組む「地域とともにある学校」の仕組みです。

問 令和8年4月新たに策定された「みのかも定住自立圏第4次共生ビジョン」のこれまでの成果と今後期待される成果について

答 定住自立圏におけるこれまでの成果としては、行政事務の効率化や行政界を超えた住民の交流、市町村の効率的な連携などが挙げられます。今後5年間は、限られた人員の中での住民サービスの維持・向上、資源の効果的な活用による効率的な行政サービスの提供が期待されるため、その実現に向けた事業を進めています。



動画QRコード

兼松 雄司 議員

● 不登校支援について

問 小中学校の不登校支援に向けた学校内支援体制と、中学校の複数担任制の検討について

答 本町の不登校児童生徒は全国と比べて少ない水準にあります。小中学校では、不登校を含む生徒指導の課題を担任だけでなく複数の教職員で対応しています。児童生徒理解については、多くの目で一人ひとりを見守ることが重要と考えています。中学校の複数担任制は検討の対象となり得ますが、導入には相当な準備が必要と考えます。

問 教育支援センターの現状と課題について

答 中学校の教育支援センターは数名の生徒が利用しており、通学の習慣化や進路実現につながる成果が見られる一方、利用の長期化・固定化が課題です。今年度新設された小学校の教育支援センターは専任相談員が常駐し、生徒指導主事と連携して運営を開始しました。学校との情報共有を進め、行事参加や仲間との関わりを支援するなど、児童が安心して過ごせる環境づくりを進めています。



動画QRコード



動画QRコード

林 重光 議員

●自転車の交通反則通告制度の周知について

問 令和8年4月改正の道路交通法(自転車の交通反則通告制度導入)を踏まえ、本町における周知状況や今後の対応は。

答 坂祝町は「自転車の利用に関する見直し」について、令和8年1月に町民へメールで周知しました。中学生への対応として、県の方針である「3年生対象」を独自に拡大し、坂祝中学校の全学年(1～3年生)および保護者に対して、メール配信システム「すぐー」などを用いて計3回の周知を実施しています。



動画QRコード

三品 美紀 議員

●マンホールポンプ場におけるトラブルについて

●空き家対策について

問 マンホールポンプ場におけるトラブルに対する職員の対応頻度、異物は何か。また、今後どのように解決するのか。

答 令和7年度のマンホールポンプ故障に伴う警報発生件数は104件です。故障の原因については、繊維類(タオル、下着等、雑巾)や紙おむつ等です。議員提案のスマッシュポンプについては、「スマッシュ機構(裁断・破砕機能)」を搭載した新型水中ポンプで、全国での導入実績もあることは認識しております。今後、ポンプ更新時には費用対効果等を比較しながら慎重に判断していきます。

※スマッシュポンプ: 固形物を細かく碎いて異物詰まりを防ぐ特殊な排水ポンプ

問 現在の空き家バンク登録状況と、利活用促進の取り組みについて

答 当町の空き家バンク登録件数は現在0件です。空き家の利活用は地域活性化や移住促進に直結するため、当町としても注力すべき重要課題と認識しています。まずは認知度向上や所有者への働きかけを行い、登録件数を増やす取り組みに最優先で力を入れていきます。

【議会改革・活性化特別委員会】坂祝町議会「議員スキル・シェア勉強会を開催しました!」

令和8年7月1日(水)、議員同士が知識や経験を共有し、より良い議会活動につなげるため、「議員スキル・シェア勉強会」を開催しました。

この勉強会では、視察や研修で学んだ内容をペーパーレスで共有し、議員同士が意見交換を行いながら理解を深めました。今回は、人口減少時代のまちづくりや地域経済、こども食堂を通じた地域づくり、地域共生社会の実現など、これからの坂祝町に関わるさまざまなテーマについて学びました。

今回の学び

- ・人口減少社会における、誰もが安心して暮らせるまちづくり(ウエルビーイング)
- ・こども食堂を通じた、多世代がつながる地域づくり
- ・地域資源を生かし、地域経済を活性化する取組
- ・人口減少を見据えた、持続可能なまちづくりの考え方
- ・地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制や重層的支援体制のあり方

今回の学びを通して、町の課題や将来の姿を改めて考えるとともに、議会として果たすべき役割を再確認する機会となりました。

今後も、学んだ内容を議会活動や政策づくりに生かし、より良いまちづくりに取り組んでいきます。

※「議員スキル・シェア」とは、議員が視察や研修などで得た知識や経験を共有し、お互いの資質向上につなげる取組です。



福祉文教委員長から報告があります！

所管事務調査

調査日：令和8年6月4日(木) 場所：総合福祉会館サンライフさかほぎ

調査事項① 民生委員・児童委員の活動状況について

民生委員・児童委員の令和7年度の相談支援活動及び今後の課題が報告され、それを踏まえて意見交換を行いました。主な議題は、児童生徒の見守りや通学の現状、個人情報保護と守秘義務、委員の選任、研修会の実施・参加状況などです。地域福祉活動の現状共有と、運営上の重要課題について多角的な議論が交わされました。

【意見・要望】

登下校時の安全確保に向け、「こども 110番の家」の周知や通学路のトイレ協力施設の確保、小学校への冷水器設置を要望しました。また、自治会未加入世帯の生活情報把握と支援につながる連携体制の構築を求めました。さらに、高齢化が進む民生委員・児童委員の担い手確保に向け、負担軽減や広報強化など行政による支援の必要性を提示しました。



調査事項② 坂祝町社会福祉協議会の地域福祉活動の現状や関連事業の概要について

社会福祉協議会から、子どもや高齢者、障がい者、生活困窮者などへの支援体制や、新規の基幹相談支援センター事業を含む地域福祉・介護サービスの現状について説明を受けました。続いてチャレンジ就労室やデイサービスセンターを視察し、作業内容や利用者の様子を確認しました。その後の意見交換では、身寄りのない方への支援や福祉人材の確保、デイサービスの利用状況などについて議論が交わされ、サンライフさかほぎ開館30周年記念事業も話題に上りました。

【意見・要望】

生活困窮者の増加に伴う相談支援体制の強化と関係機関の連携促進を要望しました。また、人材確保や育成が困難な状況にある介護職員について、地域福祉を安定的に支えるための行政による支援策の検討を求め、当事者支援と担い手不足解消に向けた積極的な関与を促しました。



総務振興委員長から報告があります！

所管事務調査

調査日：令和8年6月5日(金) 場所：北島遊水池及び西谷川調整池

調査事項 近年の豪雨災害に対する坂祝町の治水対策としての河川改修工事について

近年の豪雨災害を受けた坂祝町の河川改修工事について、町民の生命財産を守るための費用対効果の検証や課題解決に向けた議論を行うため、ヒアリングと現地調査を実施しました。

対象は主要工事である北島遊水池および西谷川調整池で、調査内容は以下の4点です。①工事前における実際の水害状況と住民からの要望、②遊水池と調整池の整備によって期待される水害の低減効果、③完成した施設の治水機能や、停電時を想定した対応、移動ポンプの要請体制、④運用面における今後の課題。これら全体計画や工事の現況、治水機能の検証を通じ、災害に強いまちづくりへの建設的な議論が交わされました。



【意見・要望】

新設された北島遊水池と西谷川調整池の減災効果を最大化するため、実効性の高い運用マニュアルの整備を求めました。あわせて、新たな防災気象情報を活用し、住民や町職員、消防団など関係者が人命最優先で対応できる体制の徹底を促しました。令和7年度で一区切りを迎える河川改修事業の後は、費用対効果を精査し、施設整備と避難体制を総合的に勘案した効率的な防災・減災施策の推進を要望しました。また、一般住宅への浸透ますや雨水貯留タンクの普及に向け、助成制度の周知や「住民参加による減災活動」の啓発に努め、必要に応じて宅地開発時の設置制度化も検討を求めました。また、木曽川の水が町内へ逆流するのを防ぐための、主要なひ菅へのオートフラップ設置の実現に向けては、今後も国などの関係機関に粘り強く要望していきます。